

出生時体格は 3 歳児のう蝕と関連なし

【背景】

本邦では、近年、低出生体重児が増加しています。乳歯は胎児期に発生・形成されます。過去の研究で、低出生体重児ではエナメル質減形成が認められることが多く、このような歯はう蝕感受性が高いという報告もあります。しかしながらエビデンスは非常に少なく、未だ結論は得られていません。また、これまで、日本人における報告はありません。今回、福岡小児健康調査のデータを活用して、出生時の体格(出生時体重 2500g未満、37 週未満の出生、small-for-gestational-age: SGA(妊娠期間に比べて体重が小さい)と 3 歳児のう蝕との関連について解析しました。

【方法】

調査に参加いただいた 2109 名のうち、今回の解析に使用する変数に欠損のない 2055 名の小児を解析対象者としました。3 歳児健診の歯科健診結果、及び、出生時体重、在胎期間について、母子健康手帳から質問調査票に転記頂くことで収集しました。その他の情報も質問調査票から得ました。性別、歯磨き頻度、フッ素の使用、歯科定期健診、間食頻度、母乳摂取期間、両親の教育歴、妊娠中の母親の喫煙、出生後の家庭内喫煙を交絡因子として補正しました。

【結果】

う蝕の有症率は 20.7%でした。平均出生時体重は 3018.3g、出生時体重が 2500g未満は 4.5%、37 週未満の出生は 4.5%、SGA は 7.1%でした。出生時体重 2500g未満、37 週未満の出生、SGA のいずれも、3 歳児のう蝕有症率とは関連がありませんでした。

【結論】

今回の解析では、出生時体格と 3 歳児のう蝕との間には統計学的に有意な関連は認めませんでした。出生時体格とう蝕との間に関連がないのかどうか、さらに別の集団で確認する必要があります。

【出典】

Tanaka K, Miyake Y. Low birth weight, preterm birth or small-for-gestational-age are not associated with dental caries in young Japanese children. BMC Oral Health. 2014 ; 14: 38.